

# 全国1位は東京・台東区立松葉小

## ショウワノートの第49回ベルマークキャンペーン

協賛会社のショウワノート（ベルマーク番号53）が昨年実施した「第49回ベルマークキャンペーン」の表彰校が決まりました。同社のベルマークを多く集めた小学校などを表彰するキャンペーンです。今回の対象は、2022年1月1日から12月31日の1年間に財団で検収を終えたマークです。

小学校の部で全国1位に輝いたのは、9378点を集めた東京都の台東区立松葉小学校です。小学校以外の部では、長野県の伊那市立東部中学校が4678点を集め、全国1位になりました。

全国1位の学校と、全国の各ブロックでそれぞれ3000点以上を集めた上位3校までの小学校には、同社から表彰状と百科事典などの記念品、学習帳が贈られます。また、各ブロックで4位以下でも、3000点以上集めた全ての小学校に感謝状と学習帳が贈られます。

2023年1月からは「第50回ベルマークキャンペーン」の点数集計が始まっています。1973年にキャンペーンが始まってから今年でちょうど半世紀。今回もエントリーは必要なく、自動的に点数が記録されます。1月1日から12月31日までに財団で検収されたショウワノートのベルマークが対象です。

各ブロック3位以上の学校は以下の通りです。

- 【全国】①台東区立松葉小（東京都）9378点  
【北海道・東北】①宮城教育大学附属小（宮城県）4800点②石川町立石川小（福島県）3087点  
【関東】①習志野市立谷津小（千葉県）9015点②日高市立高麗川小（埼玉県）7594点③市原市立ちはら台桜小（千葉県）5203点  
【東京】①東京学芸大学附属大泉小（東京都）7823点②杉並区立高井戸第二小（同）7059点③練馬区立光が



丘四季の香小（同）5849点

- 【北陸・甲信越】①魚津市立清流小（富山県）5219点②高岡市立福岡小（富山県）4168点  
【近畿】①四條畷学園小（大阪府）5986点②大阪市立常盤小（同）5099点  
【中国・四国】①倉敷市立茶屋町小（岡山県）4178点②尾道市立日比崎小（広島県）3153点  
【九州・沖縄】①那覇市立小緑小（沖縄県）6733点②久留米市立南小（福岡県）6658点  
【全国＝小学校以外】①伊那市立東部中（長野県）4678点

## 5年連続でマーク寄贈

### ニチレイグループが収集

協賛会社のニチレイ（ベルマーク番号88）が、全国のグループ会社から集まったベルマーク1万4675.7点を財団に寄贈しました。同社は2017年4月に協賛会社になって以来、毎年寄贈を続け、5年連続となりました。

総務広報部の小林顕太郎さんと富田幸世さんが12月20日、ベルマークを届けてくれました。各事業所では年間を通じてベルマークを集め、毎年12月に本社に集約。その後、障害者雇用を推進する特例子会社、ニチレイウラの従業員が整理します。点数毎のボックスを準備し、2名体制で作業したそうです。

富田さんは「ベルマーク活動への理解を深め、収集を続けることで、子どもたちの役に立ちたい」と話しました。



左からニチレイの富田幸世さん、財団の小野常務理事、小林顕太郎さん

## 100種類の音色を1台で／広い会議室に最適

### 協力会社・東通産業のお買いもの情報

協力会社の東通産業が取り扱う商品をふたつご紹介します。お買いもの参考にしてみてください。

「Casiotone ミニキーボード SA-50」はピアノ、管楽器、打楽器など、本物の楽器からサンプリングした高音質な100種類の音色を鳴らすことのできるミニキーボード。

コロナ禍で新しい生活様式が求められる中、息を吹き込まずに音を鳴らせるミニキーボードの需要は高まっています。マスクを外す必要がないため、さまざまな制約があっても、授業の幅を広げることができます。さらに、この商品はとてもコンパクト。学校の机の上に置いて演奏でき、重さも約1kgと子どもが扱いやすいです。価格は7,000円（税別）。

もうひとつの商品は、広い場所でも自由に移動しながら使える「ワイヤレスマイク付き拡声器スピーカー MM-SPAMP14」です。最大60Wの大出力で、室内約320～400平方メートル程度の広い会議室等での使用



が最適の拡声器スピーカー。講義や講演、結婚式の二次会やイベントなどにおすすめです。

家庭用コンセントで使えるAC電源、持ち運んで使える内臓バッテリー駆動のどちらでも使用することができます。内臓バッテリーは6時間の充電で、マイク使用なら10～12時間、音楽再生なら5～6時間可能です。

収納・保管に便利な専用バッグ、持ち運びに便利なショルダーベルト、マイクが転がるのを防ぐマイクスリップリングも付属しています。価格は120,000円（税別）です。商品に関する問い合わせは東通産業（フリーダイヤル0120-129-102）まで。



## Dr.ナダレンジャー、身近な道具で災害のしくみを再現

### 福島・いわき市立田人小で理科実験教室

財団のへき地校支援事業のひとつ「理科実験教室」が12月1日、福島県いわき市立田人小学校（高萩雅人校長、児童33人）で開かれました。講師は「Dr.ナダレンジャー」こと国立研究開発法人防災科学技術研究所の納口恭明さんと、助手の「ナダレンコ」こと鱒優子さんです。



ナダレンジャーがまず取り出したのは「突風マシン」。プラスチック製バケツで作った空気砲です。仮に、このマシンが体育館の大きさだとすると、人間はアリくらいになり、100メートル以上飛ば

されるそう。「災害を起こす自然現象はミニチュアにするおもちゃでも、巨大化すると怖くなる」と伝えました。

次は雪崩の実験です。ナダレンコが取り出したのは長いビニール袋。中には発泡スチロールの細かい粒が入っています。走って中に空気を入れ、子どもたちの目の前で傾けると、流れてくる粒に「速い！」と反応がありました。「東京ドームにこの粒を満タンにつめて山の上から流すと、先頭は新幹線と同じ時速300kmくらい」とナダレンジャー。



落石事故で、家族が縦1列になって落ちてくる岩をすべて避けて助かった話もし、「自分の命は自分で守ること」の大切さを語りかけました。



地震による液状化現象をペットボトルで再現するのが「エッキー」。砂と水、針のついた丸ピンがペットボトルの中に入っています。逆さにして沈むまで待った後、指先でボトルの表面を弾くと、丸ピンが砂から浮き上がりました。地震発生時にマンホールが地面から1m以上飛

び出た写真を見せながら、「ボトルをたたいた振動が地震の揺れ、出てきたピンがマンホール。ペットボトルの中で同じ現象が起きました」と解説しました。

地震の揺れ方は「ゆらゆら3兄弟」を使って学びます。高さの異なる3つのスポンジをビルに見立てて揺らす実験です。ゆっくり揺らすと長いスポンジが、速くすると短いスポンジが揺れました。

これを応用したのが最後の実験。車輪が付いた板の上に発泡スチロール製ブロックを積み上げ、ゆっくり台を動かします。ブロックが崩れ落ちるのを見た子どもたちは、大きな歓声をあげていました。

